

述而第七

子曰、我非生而知之者。
好古敏以求之者也。

子曰し いわく、我われは生うまれながらにして之これを知しる者ものに非あらず。
古いにしえを好このみ、敏びんにして以もつて之これを求もとめたる者ものなり。

(7-167)

<子曰わく、我は生れながらにして之れを知る者に非ず>

Q：「子曰わく、我は生れながらにして之れを知る者に非ず」とは何ですか。

A：(1)「孔子が言った。私は生れながらにして道を知っている天才ではない」の意。

(2)「自分は決して学ばずして生まれながら道理を知っていた天才でも聖人でもない」の意。

<古を好み、敏にして以て之れを求めたる者なり>

Q：「古を好み、敏にして以て之れを求めたる者なり」とは何ですか。

A：(1)「昔の事柄を好み、怠らず勉学して、求め知ったのである」の意。

(2)「ただ、古の聖人の学を好み、精出して之を求めた者に過ぎない」の意。

(3)「敏」とは、「速」。「汲汲」、やすまずつとめるさま。

(4)何人も努力によって聖賢の域に達し得る能力がある。ただ、大事なのは、「敏」の一字。

敏速に、精出してやらないと、光陰は矢の如くで、間もなく老衰をかこつ時がくるであろう。

2011年6月21日林明夫記